

神戸市民交響楽団でコントラバスを演奏する 南 太郎警務士(33)

C S P大阪事業部の南警務士がコントラバスを始めたのは、「何か楽器を」と神戸大学でオーケストラに入ったことからでした。

「どの楽器を」と考えた時、ある先輩から「初心者でも覚えやすく、楽譜もそれほど難しくない」と勧められ、「それなら」と決断したそうです。

でも、始めて数カ月は、退屈な基礎練習ばかり。楽器自体の音程があまりにも低く過ぎ、何かメロディーを弾いて遊ぶこともままならなかったといいます。合奏に参加出来るまでの間は、「つまらないなあ…」と思いながらも我慢しながら練習していたそうです。

しかし、合奏に参加してからは、「自分の出す音がハーモニーを支えていることを実感出来て、が然面白くなりました」。練習するほどに複雑な旋律も弾けるようになり、ますます夢中になっていきました。音色も工夫次第で自分好みに味付け出来るのも面白いところだそうです。

今は、仕事の合間に毎週1回、自宅のある神戸市の、所属する市民交響楽団で合奏練習をし、定期の夏冬をはじめ各種の演奏会に愛器とともに出演しています。「最近では練習やCDを聴く時間が少なくなりましたが、音楽とは未永く付き合っていきたい」と話しています。



「演奏中の南警務士(中列右端)」